

第九十九回 日本医史学会 学術大会 演題目次

会長講演

牛痘種痘法の鼻祖中川五郎治に関して誤って伝えられていること……………松木明知……………(5)

特別講演 I

Edward Jenner's Activity in Science ……………Malcolm F. Beeson……………(8)

特別講演 II

North American Vaccination above the 49th Parallel ……………John W.R. McIlhryre……………(12)

シンポジウム I

「日本における医史料の蒐集と保存について—その現状と提言—」……………司会 寺畑喜朔……………(14)

シンポジウム II

「若い人たちに医学史を伝えるために」……………司会 大村敏郎……………(15)

一般口演

- 1 明治初期の啓蒙医家森鼻宗次……………中山 沃……………(16)
- 2 済生学舎出身の生化学者、旧制金沢医科大学学長「須藤憲三」について……………唐沢 信安……………(18)
- 3 医師・加藤時次郎と横浜……………中西 淳朗……………(20)
- 4 太田正雄（木下奎太郎）の医学ノートについて……………黒川 一郎・島田 保久・吉田 信……………(22)
- 5 最近発見したヒポクラテス画像と賛文について……………蒲原 宏……………(24)
- 6 ——坪井信道賛——川原慶賀のヒポクラテス画像……………和田 和代史……………(26)

- 7 小島宝素の『医心方』巻22の伝鈔について……………町 泉寿郎……………(28)
- 8 幕末期の院内銀山の死亡者記録の分析「門屋養安日記」にみる庶民の医療(2)……………助 昭三……………(30)
- 9 「看護」という言葉の使用のはじめ(第3報)―鎌倉時代末期の仏教史書『元亨釈書』と看護……………平尾 真智子……………(32)
- 10 大村藩・古田山と長与俊達、大浦嘯山……………長与 健夫……………(34)
- 11 足立長雋の祖為春先生と乗附為春海鏡……………石原 力……………(36)
- 12 江戸期本草家の北陸への関心(2) 畔田翠山の白山・立山紀行……………正橋 剛二……………(38)
- 13 中国伝統医学と道教(第19回)「符」……………吉元 昭治……………(40)
- 14 中日両国に於ける古代の疫病流行について(紙上発表)……………邵 沛……………(42)
- 15 医療技術の視点から見た『三國志』と『三國志演義』の比較……………和田 裕一……………(44)
- 16 『素問放注』の用字例……………宮川 浩也……………(46)
- 17 李東垣の瀉血療法……………友部 和弘……………(48)
- 18 元代の三皇廟について……………秦 玲子……………(50)
- 19 『紹興本草』の新知見……………真柳 誠……………(52)
- 20 『玉機微義』における薬物の使われ方……………原田 俊介・小曾戸 洋・真柳 誠……………(54)
- 21 宋板傷寒論不可本篇の成立について……………牧角 和宏……………(56)
- 22 『全九集』の編纂者とその意図……………遠藤 次郎・中村 輝子……………(58)
- 23 清医 趙淞陽について―1726―1729年の長崎での逸事―……………郭 秀梅・岡田 研吉……………(60)
- 24 田中弥性園所蔵の善本古医籍(明版)……………小曾戸 洋・田中 祐尾……………(62)
- 25 同仁会の機関誌『同仁』について……………丁 蕾……………(64)
- 26 ドイツの臨床神経学―RombergからErbまで―……………高橋 昭・伊藤 泰広……………(66)

27	ベレッティーニ解剖図譜における自律神経系(第2報)	レジス・オルリー・本宮かをる	(68)
28	オランダ・ライデンの外科医ギルドの歴史	石田純郎	(70)
29	リヨンにおける医学小史(2)―オテル・ディウとシャリテ―	小林晶	(72)
30	フランスにおける人痘法受け入れ論争	小田泰子	(74)
31	ヴェサリウス解剖学の構成とその起源について	坂井建雄	(76)
32	ハックスリの英文・比較骨学図譜(1864年)について	松尾信一	(78)
33	十九世紀アメリカ医学における瀉血	藤倉一郎	(80)
34	アヴィセンナ(イブン・シーナ)の「医学範典」における精神医学(第1回)	濱中淑彦	(82)
35	ハスダイ・イブン・シャブルートとカイロ・ゲニザ	泉彪之助	(84)
36	日本の精神病学における遺伝学的研究の歴史(その2)	岡田靖雄	(86)
37	鷗外の「甘瞑の説」	高橋正夫	(88)
38	解剖用語「瘵」の受容、定着の過程について	佐藤裕	(90)
39	歯芽硬組織生活力に関する概念の変遷について	西巻明彦	(92)
40	梅毒血清診断ワッセルマン反応と日本への紹介について	会田恵	(94)
41	浅田宗伯と清国駐日公使館の人たち	陳捷	(96)
42	明治12年から16年までの東京府における医術開業旧試験について	樋口輝雄	(98)
43	死体と臓器移植	杉田暉道	(100)
44	『雲備医事』の復刻事業について	江川義雄・中川和夫	(102)
45	地蔵寺過去帳による華岡青洲の系譜の新知見	松木明知	(104)
46	日本における脊椎麻酔の歴史―昭和20年以前の研究について―	小谷直樹・松木明知	(106)

47	性病予防行政史―戦後の激動期を中心に―……………	長門谷洋治・坂上俊之……………(108)
48	クロフォード F・サムス大佐の人と業績……………	吉見契子・鈴木明子……………(110)
49	松本順と北海道―特にその来道と足取りを追って―……………	宮下舜一……………(112)
50	赤城信一について(第3報)……………	上田智夫・小竹英夫・宮下舜一・吉田信……………(114)
51	徳川慶喜の奥医師の生誕地とその周辺……………	木村專太郎……………(116)
52	1910年以前の在韓宣教医……………	高安伸子……………(118)
53	明治12年沖繩県のコレラ流行―土屋寛信の『琉球紀行』から―……………	深瀬泰旦・真柳誠……………(120)

発表日時

特別講演 I・II・シンポジウム (I)・一般口演 1〜25
 シンポジウム (II)・一般口演 26〜44・ポスター 45〜53
 平成10年5月16日(土)
 平成10年5月17日(日)

〈本号の表紙絵〉

種痘毎日変状之図
 (「遁花秘訣」富士川本から)

文化9年(1812)中川五郎治はシベリアから帰国したが、ロシア語の種痘書を携えていた。俗に「オスベンネイケニカ」と称され、1803年のペテルブルグで出版された本であった。これは偶然にもゴローニン取り調べのため松前出張中の馬場貞由の目にとまり、8年後に「遁花秘訣」として馬場の訳稿が完成したが、刊行されなかった。「遁花秘訣」は数種の写本として伝えられたが、訳が成って30年後の嘉永3年(1850)に三河の利光仙庵が「魯西亜牛痘全書」と改題して出版し、さらに安政2年(1855)にその再版が上梓された。ペテルブルグで出版され、その後半世紀の間数奇な運命を辿った本である。

(松木明知)